2H-04

紋章における図像化規則の複雑性の検討¶

三浦 誉史加*, 柴田 みゆき*

大谷大学文学部国際文化学科*, 大谷大学文学部人文情報学科**

1. はじめに

シェイクスピアの父が初めて紋章申請を行った時期は，1576 年といわれる[1]．当時のイギリスでは紋章の利用に際し，一定の条件や義務があった．紋章を持たない家系出身であるシェイクスピアの父には，婚姻により紋章を新設する義務が生じた．しかし，実際に認可が降りたのは，劇作家として有名になった息子が中心となって紋章獲得活動を開始した後の，1596 年であった．ところが，紋章の獲得に 20 年を要したにも関わらず，1599 年には異例の再認可を受けている．この理由は諸説あるが，確定情報はない．

本稿では，2 度の紋章認可前後の時期の作品を対照することで，シェイクスピアが抱いていた紋章に対する認識とその注目点の推移を考察した．

2. 史劇の特徴

シェイクスピアの史劇の多くは，位階の簒奪とその奪還に関する．それらの推定執筆時期が紋章獲得以前に集中する点は，特筆に値する．1 度目の紋章獲得前後に書かれたと推定される『ジョン王』中の登場人物であるソールズベリー伯は，イングランドで初めて紋章を使用した人物といわれる[1]．

2 度目の紋章獲得前後には，史劇『ヘンリー五世』が執筆されたと推定される．ヘンリー五世は，婚姻によりフランスの王位継承権を主張したイングランド王である．

1 度目の紋章認可前後の 2 作品に比べ，2 度目のそれは，家系情報がより複雑化している．これは，シェイクスピアが紋章の知識に自信を深めた可能性を指摘しうる．

3. 分析の手法

森護氏は，作品におけるシェイクスピアの“gentleman”の使用回数の多さは，「紋章を使

（表１）シェイクスピア史劇と紋章獲得時期

紋章獲得	推定執筆年	史劇	
	1589	ヘンリー6世 第1部	
	1590		ヘンリー6世 第2、第3部
	1591		
	1592	リチャード3世	
	1593		
	1594	ジョン王	
	1595		
1度目	1596		ヘンリー4世 第1部
	1597		
	1598	ヘンリー4世 第2部	
2度目	1599	ヘンリー5世	
	1600		
	～		
	1612	ヘンリー8世	
	1613		

用できる階層へのあこがれ」の強さを示している，と指摘している．そこで、時期によってこの使用回数に違いがあるかどうかを，AntConc3.4.3w を用いて *Open Source Shakespeare: An Experiment in Literary Technology* のテキストを解析した．すると，最初に紋章認可が下りた 1596 年及び 2 度目の認可を得た 1599 年前後に，明らかに“gentleman”への言及回数が増えている．

更に，『十二夜』においても使用回数が格段に増えていることに注目したい．1602 年，その資格を得るにふさわしくないものに紋章を与えているとしてヨークの紋章官ラルフ・ブルクが非難した 23 件の認可の中に，シェイクスピア家も含まれていた[3]．ブルクはまた、シェイクスピア家の紋章は「ドゥ・モーリー一族の紋章と混同する恐れ」があるとして、シェイクスピア家の紋章認可に異議申し立てをしている[1]．この年に推定製作年代が重なる『十二夜』において“gentleman”の使用回数が最も多い（表２）。更に、共起語を調べてみると、例えば一度目に紋章が認可された 1596 年頃に書かれた『ヘンリー四世 第一部』より、gentleman に付随する徳を表す言葉が減っていることに気付く（表３）。

¶A study of Design for Genealogical Data Exchange Format from the View of Elements of a Coat of Arms

* Yoshika Miura : Otani University, Faculty of Letters, Division of Intercultural Studies

** Miyuki Shibata : Otani University, Faculty of Letters, Division of Humane Informatics

Copyright ©2015 Information Processing Society of Japan. All Rights Reserved.

これは、紋章認可異議申し立てに対する、シェイクスピアの不安感を示していると言えるのではないだろうか。

（表２）“gentleman”が使用される作品

執筆推定年代	作品名	回数
1602	**十二夜**	**21**
1610-1611	冬物語	21
1607-1608	アテネのタイモン	18
1594	ヴェローナの二紳士	16
1598-1599	**から騒ぎ**	**15**
1597	**ウィンザーの陽気な女房たち**	**14**
1599	**ヘンリー五世**	**13**
1600-1601	**ハムレット**	**12**
1609-1610	シンベリン	12
1612-1613	ヘンリー八世	11
1596-1597	ヘンリー四世第一部	10
1596-1597	ヴェニスの商人	9
1604	尺には尺を	8
1592-1593	リチャード三世	7
1595	リチャード二世	7
1607-1608	ペリクリーズ	7
1594-1595	恋の骨折り損	6
1595-1596	ロミオとジュリエット	6
1595-1596	夏の夜の夢	6
1599	**お気に召すまま**	**6**
1602-1603	終わりよければすべてよし	6
1589-1590	ヘンリー六世第一部	5
1590-1591	ヘンリー六世第二部	4
1594-1596	ジョン王	4
1604	オセロ	4
1592-1594	間違いの喜劇	3
1606	マクベス	3
1607-1608	コリオレーナス	3
1590-1591	ヘンリー六世第三部	2
1601-1602	トロイラスとクレシダ	2

（表３）“gentleman”の共起語

ヘンリー五世	十二夜
worthy, wert, stout, along, alive, need, virtuous, valiant, company	Incardinate, follower, drive, distract, soldier, desires, young, save, behavior

4. 考察

集計の結果，名詞 gentleman が頻出する作品は，シェイクスピアが 2 度目の紋章認可を受けた前後に集中していることが判明した．

5. おわりに

以上，直接に紋章を想起させる単語ではない gentleman という単語を手がかりに，シェイクスピアの紋章に対する認識と注目点の推移を考察した．今後は，さらに直接には紋章を想起させないが密接に関係のある単語を洗い出し，シェイクスピアの紋章に対する認識と注目点の推移を継続研究する予定である．

謝辞

本研究は，科学研究費・基盤研究(C)[課題番号：26503015]の研究成果の一部である．

参考文献

[1] 森護，『シェイクスピアの紋章学』，大修館書店，1987.
[2] Stephen Gleenblatt, *Will in the World*, Norton, 2004.
[3] *Open Source Shakespeare: An Experiment in Literary Technology*, Green Mason University, http://www.opensourceshakespeare.org/

Copyright ©2015 Information Processing Society of Japan.
All Rights Reserved.